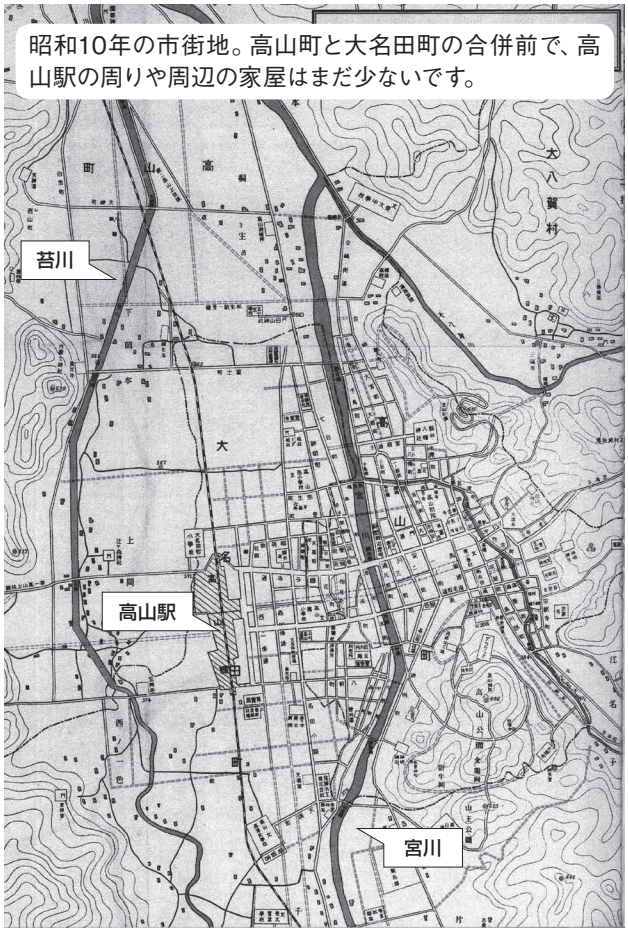
つたえる・ひろげる・つくりだす
高山市制施行80周年

【シリーズ80年のあゆみ】

第4章 鉄道と道路

昭和11年11月1日、県内3番目の市として高山市が誕生しました。

80年にわたる高山市のあゆみを、広報たかやまではさまざまなテーマで振り返ります。



昭和10年の市街地。高山町と大名田町の合併前で、高山駅の周りや周辺の家屋はまだ少ないです。

市が平成12年3月に発行した「暮らしのかたち～高山の住まいを訪ねて～」には、昭和の始め・中頃・現在までと題して、市街地の地図が掲載されています。

発行から15年余り。現在の地図には中部縦貫自動車道や高山国府バイパス、JRアンダーパス、高山駅東西自由通路などが記されることになります。

第4章では鉄道と道路をテーマに振り返ります。

第一の夜明け

高山本線全線開通を祝賀記念した大阪毎日新聞（現在の毎日新聞）の昭和9年10月25日付の紙面には「開かれる飛騨の國」と見出しがありました。この紙面では、沿線の名勝地として久々野、宮、高山、上枝、國府などを、また景勝地として平湯温泉などが紹介されています。

飛騨の「第一の夜明け」と呼ばれる高山本線全線開通から82年。

飛騨の国は開かれました。沿線の生活と地域の発展を支える高山本線は、毎日の通学や通勤、そして当地を訪れる多くの観光客にとって欠かせない存在です。

そして市制施行80周年を迎えた記念すべき今年、飛騨の玄関口は橋上駅舎化と高山線をまたいで東西を結ぶ自由通路「匠通り」が完成。装い新たとなった高山駅東西自由通路は、まちの新しい顔としてこれからも多くの人々に愛されます。

●高山本線利用状況（平成26年度）

駅名	乗車人員（人）
渚駅	1,932人
久々野駅	32,414人
飛騨一ノ宮駅	12,583人
高山駅	570,772人
上枝駅	4,540人
飛騨国府駅	8,463人

※降車人員は含まない
資料:東海旅客鉄道株式会社

第二の夜明け

平成10年2月の長野オリンピックに間に合わせるために急ピッチで工事が進められた安房トンネルは、平成9年12月に開通しました。この開通により、飛騨と長野の相互通行が通年可能となり、東京～高山間を結ぶ新しい大動脈が誕生しました。

なお、開通した安房トンネルは、中部縦貫自動車道の一区間です。

安房トンネル作業坑貫通式

完成した高山駅東西自由通路